

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 1 部門第 2 区分
 【発行日】令和 3 年 8 月 5 日 (2021.8.5)

【公開番号】特開 2020-31858 (P2020-31858A)
 【公開日】令和 2 年 3 月 5 日 (2020.3.5)
 【年通号数】公開・登録公報 2020-009
 【出願番号】特願 2018-160799 (P2018-160799)
 【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】令和 3 年 6 月 28 日 (2021.6.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

始動口への入球に起因して当否判定が実行されると、特別図柄の変動表示を実行した後、前記当否判定の結果を示す結果図柄を確定表示する特別図柄表示手段と、

前記結果図柄として、前記当否判定の結果が小当りであることを示す小当り図柄が確定表示されることに基づいて、所定の大入賞口を開放制御する小当り遊技を実行する小当り遊技実行手段と、を備え、

前記小当り遊技によって開放制御された大入賞口に入球した遊技球が、特定領域に誘導されることに基づいて、前記小当り遊技よりも有利な大当り遊技を実行する遊技機であり、

前記当否判定の結果が小当りとなると、確定表示される小当り図柄の種類を複数の種類から選択する選択手段と、

前記大入賞口の内部に設けられると共に、周期的に駆動する振り分け部材によって、投入された遊技球の行き先が所定の確率で前記特定領域となるように振り分け、該投入された遊技球を前記特定領域に誘導する振分装置と、

前記大入賞口に入球した遊技球を前記振分装置に投入不可能な投入不可能状態、若しくは、該遊技球を前記振分装置に投入可能な投入可能状態に変化可能であると共に、該大入賞口に入球した遊技球に関し、該振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を調整する調整手段と、を備え、

前記調整手段は、前記小当り図柄の種類に応じて、前記小当り遊技によって開放制御された大入賞口に入球した遊技球が、前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を調整する遊技機であって、

該調整手段は、

前記振分装置に遊技球が投入されると、該投入された遊技球を検出する検出手段を備え、前記投入可能状態で該検出手段が検出した遊技球の検出個数が前記小当り図柄の種類に応じて設定される球数となると、前記投入可能状態から前記投入不可能状態に変化することで、前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を調整し、

前記始動口への入球に起因して抽出された抽出情報を記憶する抽出情報記憶手段と、

前記当否判定が行われる前に前記抽出情報の内容を先読判定する先読判定手段とを備え、

、

前記先読判定の結果に基づいて、前記小当り遊技を実行した場合に前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆する先読演出を行う

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正２】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】０００７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【０００７】

請求項１に記載の遊技機は、

始動口への入球に起因して当否判定が実行されると、特別図柄の変動表示を実行した後、前記当否判定の結果を示す結果図柄を確定表示する特別図柄表示手段と、

前記結果図柄として、前記当否判定の結果が小当りであることを示す小当り図柄が確定表示されることに基づいて、所定の大入賞口を開放制御する小当り遊技を実行する小当り遊技実行手段と、を備え、

前記小当り遊技によって開放制御された大入賞口に入球した遊技球が、特定領域に誘導されることに基づいて、前記小当り遊技よりも有利な大当り遊技を実行する遊技機であり、

前記当否判定の結果が小当りとなると、確定表示される小当り図柄の種類を複数の種類から選択する選択手段と、

前記大入賞口の内部に設けられると共に、周期的に駆動する振り分け部材によって、投入された遊技球の行き先が所定の確率で前記特定領域となるように振り分け、該投入された遊技球を前記特定領域に誘導する振分装置と、

前記大入賞口に入球した遊技球を前記振分装置に投入不可能な投入不可能状態、若しくは、該遊技球を前記振分装置に投入可能な投入可能状態に変化可能であると共に、該大入賞口に入球した遊技球に関し、該振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を調整する調整手段と、を備え、

前記調整手段は、前記小当り図柄の種類に応じて、前記小当り遊技によって開放制御された大入賞口に入球した遊技球が、前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を調整する遊技機であって、

該調整手段は、

前記振分装置に遊技球が投入されると、該投入された遊技球を検出する検出手段を備え、前記投入可能状態で該検出手段が検出した遊技球の検出個数が前記小当り図柄の種類に応じて設定される球数となると、前記投入可能状態から前記投入不可能状態に変化することで、前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を調整し、

前記始動口への入球に起因して抽出された抽出情報を記憶する抽出情報記憶手段と、

前記当否判定が行われる前に前記抽出情報の内容を先読判定する先読判定手段とを備え

、前記先読判定の結果に基づいて、前記小当り遊技を実行した場合に前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆する先読演出を行う

ことを特徴とする。

【手続補正３】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１２

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１２】

また、請求項１に記載の遊技機において

前記変動演出は、前記特別図柄の変動表示に対応して、複数の演出図柄の変動表示を開始した後、該複数の演出図柄を所定の停止順序で停止表示して終了すると共に、該停止表

示された複数の演出図柄の組み合わせ態様によって前記当否判定の結果を報知するものであり、

前記投入球数示唆演出は、

前記変動演出を開始した複数の演出図柄のうちで、前記停止順序が最終の演出図柄が停止表示される前において、前記停止順序が到来した演出図柄を停止表示して構成される中間演出表示の表示態様によって、前記小当り遊技を実行した場合に前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆することとしてもよい。

【手続補正４】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１３

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１３】

これによると、中間演出表示の態様（例えば、リーチ表示を構成する図柄が示す数字等）によって、小当りを発生した場合における「振分装置への投入可能球数」を示唆することができる。つまり、複数の演出図柄の幾つかが停止表示された瞬間は遊技者が注視するタイミングであり、そのタイミングで、投入可能球数の示唆がされることとしている。従って、前半の「図柄変動遊技」と後半の「役物遊技（遊技球振分遊技）」とがより強く関連付けられ、前後半を一連の遊技とすることができる。

【手続補正５】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１５

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１５】

また、前記投入球数示唆演出は、

前記変動演出を終了するまでの間に実行されると共に、前記小当り遊技を実行した場合に前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆する予告演出態様で実行されることとしてもよい。

【手続補正６】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１６

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１６】

これによると、変動演出を実行中において、当該変動演出において実行される予告演出によって、振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆することとしている。つまり、実行を開始した変動演出中（つまり、当該変動演出中）に予告演出態様（例えば、キャラクタのセリフ、出現するキャラクタの種類、出現するキャラクタの数等）によって振分装置への投入可能球数が示唆できるので、前半の図柄変動遊技と、後半に実行される可能性がある役物遊技（遊技球振分遊技）とがより明確に関連付けられ、前後半を一連の遊技とすることができる。

【手続補正７】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００１７

【補正方法】変更

【補正の内容】

【００１７】

特に、予告演出態様によって投入可能球数をより明確に示唆することができるため、遊技興趣を一層高めることができる。

さらに、予告演出態様の出現時を種々選択でき、例えば、前述の中間演出表示（リーチの表示）の実行前と、中間演出表示（リーチの表示）の実行中と、中間演出表示（リーチの表示）の実行後とのうちの少なくとも何れかを例示できる。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

また、前記中間演出表示の表示態様によって、前記小当り遊技を実行した場合に前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆する場合、前記投入球数示唆演出では、前記中間演出表示を契機に開始される演出の態様によって、前記小当り遊技を実行した場合に前記振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆することとしてもよい。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

これによると、中間演出表示を契機として開始される演出態様によって、小当り遊技を開始した場合において振分装置に投入可能とされる遊技球の球数を示唆することとしている。この場合、遊技者の注目が特に集まり易い演出（中間演出表示を契機に開始される演出）を通じて、前半の図柄変動遊技と、後半に実行される可能性がある役物遊技（遊技球振分遊技）とが強く関連付けられ、前後半を一連の遊技とすることができる。

【手続補正 10】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

また、「中間演出表示を契機に実行される演出」として、「リーチ表示を契機として実行されるリーチ演出」を例示できる。この場合、遊技者が特に注目する「リーチ演出」の態様によって振分装置への投入球数を予測可能とすることができる。例えば、リーチ演出を出現する背景の種類、背景として表示される数字等、キャラクタの種類、数等によって、振分装置への投入可能球数を予測可能とすることができる。

【手続補正 11】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】削除

【補正の内容】

【手続補正 12】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

先読判定結果に基づいた先読演出によって、先読の対象となる変動表示（変動演出）を開始する前から、「対象となる変動表示（変動演出）が実行された場合における振分装置への投入可能球数」を先読し、この先読の結果を示唆することができる。従って、実際に先読の対象となる変動表示を実行した際に、振分装置への投入可能球数が判明するため、

先読の対象となる変動表示を開始する前から、前半の図柄変動遊技と、後半の役物遊技（遊技球振分遊技）との関連性、関連度を予告することができる。よって、遊技者は、先読の対象となる変動表示の開始を、期待感を持って待つことになり、遊技興趣を更に一層、高めることができる。